

広報



かんだう・なかよし・だいすき

2000
3/1号

N0394

い 射る

(金田町町長杯争奪弓道大会の様子)



ごあんない

- (P 2~5)チャイルドシート
- (P 6~7)まちのわだい
- (P 8~9)こんにちは保健婦です
- (P 10~11)みんなのひろは
- (P 12~15)くらしの情報

広報特別折り込み・バスツアー申込み



4月からチャイルドシートが着用義務化になります！



腕だけでは子どもの「命」は守れません...

□抱っこで守れない子どもの命

エアバッグや衝突安全ポディーなど、車の安全性を高める装置が目立っています。しかし同乗する子どもの安全についての認識は、十分に深まっているとはいえないのではないのでしょうか？

例えば、助手席に座ったお母さんが走行中に子どもを抱っこしている姿を目にすることがあります。このとき、もし衝突事故が起こったら子どもはどうなるでしょう。お母さんは、わが子を抱きしめて守ることができるのでしょうか？ 答は「できない」です。

車が時速40kmで衝突するとき、シートベルトをして子どもを抱っこお母さんの腕には、子どもの体重の約30倍もの力がかかります。つまり10kgの子どもの場合、加わる力は、なんと300kgにもなるのです。大人といえ

ども支えられるものではありません。小さく軽い子どもの体は簡単に宙に舞い、車内で激しく頭を打ったり、フロントガラスを突き破って車外に投げ出されたりしてしまいます。

抱っこするお母さんがシートベルトをしていなかった場合、お母さんの体が子どもを押しつぶしてしまうということもあります。

それではシートベルトを着用させれば安心かということ、そうではありません。車に装備されているシートベルトは、大人の体格に合わせて作られています。いざというとき子どもの体をきちんと支えられないばかりでなく、ベルトが子どもののどやおなかにかかった状態で衝突や急ブレーキの力が加わると、首をしめたり臓器破裂を引き起こすこともありかえって危険なのです。

□事故時の致死率は9分の1に

こうした事態を防ぐために作られたのが、子供用のシートベルト装置「チャイルドシート」です。

警察庁などの調査によると、自動車乗車中の交通事故で、チャイルドシートを着用していた場合の子どもの致死率は、着用していなかった場合に比べて九分の一、重傷率では約3分の1という結果が出ています。チャイルドシートを着用していれば防げたと考えられる事故も多いのです。

にもかかわらず子どものチャイルドシート着用率は、八歳以下の子どもを対象にした(社)日本自動車連盟の調査でも約8%と低い率となっています。「めんどくさい」とか「子どもがいやがる」という理由で、チャイルドシートを持っているのに使っていないケースも多いようです。

6歳未満の子どもが自動車に乗っているときに起きた交通事故で、平成10年度中に死傷した子どもの数は9千5百48人。年間1万人近くもの幼児が死亡したり、ケガをしたりしているのです。特にこの5年間で、その死傷者数は15倍に急増しています。

このため4月から6歳未満の子どもを同乗させるときは、チャイルドシートの使用が義務づけられます。違反した場合は1点の減点。しかし、減点だけでは守れないのですから：

緊急事態宣言



しかし万一の事故から子どもたちの命を守るのは大人の役割です。子どもたちの体格にあったチャイルドシートを用意し、正しい着用方法でしっかりと座らせる。これが親の本当の愛情であり、責任ではないでしょうか？

「子どもが嫌がるからしない」のではなく、小さいときから子どもにチャイルドシートやシートベルトの着用慣れさせ、必要性を理解させることが大切です。

もしもの時に子どもの命を守るチャイルドシート。いま必要なのは、私たち保護者が「子どもを車に乗せる=チャイルドシート着用」と、いつも考え、実行することなのです。

田川所管内で、昨年1年間の死亡事故は、15件・15人の方が亡くなりました。今年はずで、2月11日から19日までの間で、4件・4人の方の尊い命が亡くなっています。これは、県下でワースト1の非常事態となっています。

スピードは控えめに、マナーを守って安全運転を！

□チャイルドシートの選び方

チャイルドシートはいろいろなメーカーから様々な種類のもが市販されています。どれを選ぶか迷っている人は、次のポイントを参考にしてみてください。

●車にあったものを

チャイルドシートは、全ての車に取り付けられるというわけではありません。購入時には、実際に取り付ける車に乗っていき、取り付けができるかどうかを問い合わせてから買しましょう。

●安全基準に合格しているものを

運輸省形式マークやJISマークまたは、米国自動車安全基準やヨーロッパ統一安全基準に合格している表示があれば安心です。

●取り付けが簡単なものを

シートベルトがとおしやすく、しっかり固定できる構造のものを選びましょう。また説明書にも目をとおり、分かりやすいものを。

●あまり重くないものを

重たいものは取り扱いが大変。10kgから15kgを目安にし、なるべく軽いものを選びましょう。

●クッションやカバーが簡単に取り外せるものを

衛生面のことも考えて、こまめに洗濯できるものを選びましょう。

●こんなトコロもチェック

- ▽ 背もたれは子どもの頭を支える高さがあるか。
- ▽ 横の衝撃から頭を保護するクッションは、十分な高さがあるか。
- ▽ ベルトの位置や仕組みは、首に巻き付いたりバックルのさし込みがゆるんだりしないか。
- ▽ 安定はいいか。座面が高いと重心が高くなり不安定になりがち。またシートの底面積は、大きい方が安定しやすい。

※このほかチャイルドシートに関するお問い合わせは、田川警察署までご連絡ください。

■問い合わせ ☎42-0110

田川警察署・交通課

事故防止には家族の「声かけ」も大切です

昨年1年間に田川管内で起きた交通事故の傾向をみると、お年寄り子どもが被害者になっているケースが非常に多く見られます。車を運転する人が交通ルールを守り歩行者に注意を払うのは当然のことですが、歩行者の側もルールを守って、車に気をつけなければなりません。交通事故は、加害者と被害者のどちらになってもイヤなものですから…。

■子どもに多い事故

事故原因のひとつが「飛び出し」といっていいでしょう。道路を横断した友人を追って飛び出したり、信号で停車している車の陰から飛び出したり…。中には坂道を自転車で一気にと下ってそのまま道路に飛び出し事故に遭ったというケースもありました。いずれも遊びに夢中になり、まわりの状況判断ができていないケースがほとんどです。

■お年寄りに多い事故

体力や身体機能の衰えが事故につながるケースが多く見られます。例えば横断中の事故では、道路を渡りきる直前で起きてくる場合が多いです。車との距離をみて「渡れる」と思っても、いざ渡ってみると車が近づいて来るのが思ったより早い。このときの位置が道路中央あたり。このため「早く渡りきらなければ…」というあせりが出て、車がすぐそこまで来ているのに無理をしてしまうというケースです。中には、危険な行為と分かっているのに「車の方がよけてくれるから」と安全を他人まかせにするケースもみられます。

■家族の声かけも大切

交通事故をなくすため、私たちは何をしなければならぬのかを考えてみましょう。

お年寄りの場合は、危険な行為の「自覚のなさ」が事故につながっている場合が多いようです。またまた若い…と過信して、実際の危険な行為に気づいていない場合もあります。家族やまわりの人が気づいたら、声をかけてあげましょう。また他人の忠告は、素直に受け入れましょう。良薬口に苦し。ためになる忠告ほど耳が痛いものです。いつまでも謙虚な気持ち忘れられないようにしたいですね。



あなたの身近な出来事、地区の話題など
どしどしお寄せください。お待ちしております。
連絡は、広報担当(☎22-0556)まで。

西暦2000年記念金田町長杯争奪弓道大会が、町民会館を仮設会場として、1月30日に行なわれました。
参加団体は、日王弓友会、香原香嶽館、田川鷹弓会、東鷹高校、西田川高校の参加者数108人で行なわれました。
この大会では、通常あまり行なわれないという巻藁射礼(まきわらしやれい)(神事・祝いごとなどの重要な儀式の際に行なわれる)や、普段見る機会が少ないのではと思われる弓道の演武が行なわれた後、競射が行なわれました。
的場に入るときから、すでに弓を射る心構え、集中力、精神力が必要です。静まり返った会場は、四本の弓を射る選手達に注目があつまりました。
競射の結果は次のとおりです。

■団体の部

- 1位…日王弓友会A 2位…日王弓友会B
- 3位…香原香嶽館B

■個人の部

一般男子

- 1位…中川謙治(香春) 2位…原口勝利(日王)
- 3位…植田至道(日王) 4位…森 誠一(香春)
- 5位…大井優治(日王)

一般女子

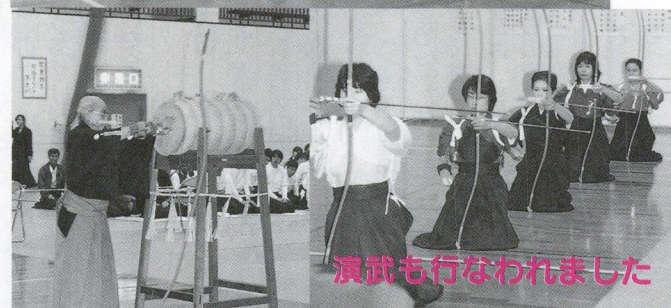
- 1位…吉田啓子(日王) 2位…高瀬佐和子(田川)
- 3位…舛田真理子(日王) 4位…川村浩美(田川)
- 5位…吉田治美(田川)

高校生男子

- 1位…杉山大輔(東鷹) 2位…日野健吾(東鷹)
- 3位…中村祐介(東鷹) 4位…中野雄大(西田川)
- 5位…松岡優樹(東鷹) 6位…東田義文(西田川)
- 7位…西藤宏輔(東鷹) 8位…一ノ瀬圭吾(東鷹)

高校生女子

- 1位…松田直美(西田川) 2位…矢野美雪(東鷹)
- 3位…山本彩子(西田川) 4位…白川真梨代(東鷹)
- 5位…早瀬ひかり(東鷹) 6位…永末麻衣子(東鷹)
- 7位…吉田 恵(東鷹) 8位…妻島明須香(西田川)

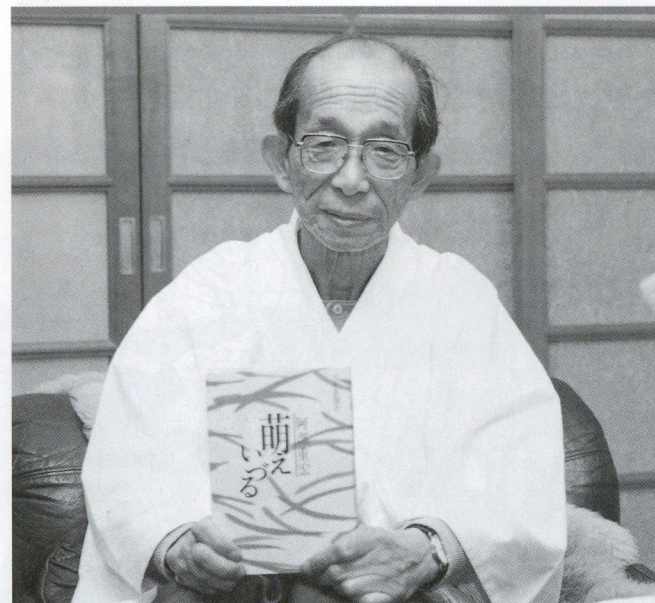


七夕のような鬼杉会

「年にいちど一同に集まり顔を会わせ行なわれる七夕のような鬼杉の俳句大会でございます。」と新町の市川法子さん。

この俳句大会の主催の代表者・赤池町の岩井鬼童先生ご指導のもとで、金田、糸田、田川、穂波、宗像、八幡の各分科会ごとに行なわれている生徒のみなさんが、1月26日金田町総合会館に集まり、第二回『鬼杉』俳句大会が、昨年に引き続き行なわれました。

俳句は、日常生活で感じたことを言葉(文字)に置き換え表現します。各分科会の教室だけでは刺激を受けず、作風が伸びない。こうして、各分科会のみなさんが集まり顔を会わせ交流を行なうことで、お互いに影響を受けることができます。この俳句大会が行なわれることにより親睦も深まり、大きなステップとなっています。



もえいづる・自費出版さる

金田町中央公民館短歌教室の講師として、また、波濤短歌会第一同人として長い間頑張ってきた東金田の阿部重宏さんが、自作短歌の詠草424首を選び、短歌新聞社から短歌集『もえいづる』を自費出版しました。

身近なところで、見・聞き・感動したことを心の歴史を刻む思いで詠まれた歌ばかり、詠む人に深い感銘を与える短歌集となっています。

阿部さんは、昭和52年当時の金田町中央公民館の短歌教室の開催から、今日まで短歌に携わり、千数百首以上の短歌から選び、短歌集『もえいづる』出版にこぎつけました。

“わたしの主張”・言葉

『言葉は、すごくいいものなんだけど、時には人の心を傷つける恐いものにも変身するもの、でも、例え言葉で傷つけたとしても、言葉があります。』

「ごめんなさい」という言葉があります。心を込めて謝れば、完全にはないけれど、次第に心の傷は消えてくるだろうと思います。

言葉には、すごくいい言葉があるのだから、一番かんじんなのは心です。』と、金田中学校2年生・花田良子さんが、2月19日、赤池町同和中央研究所で行なわれた青少年健全育成県民会議田川地区大会で、金田町代表として「わたしの主張」を行ないました。

この大会では、田川地区より小中学生による「わたしの主張」が行なわれ、子ども達の考えていること大人が見落としがちなることを、ずばり主張することも少なくなく、耳を傾けて聴いているとなるほど感心させられることばかり、とてもすばらしい“わたしの主張”でした。

